



## 決意を新たに 成人を祝う

8月15日、戦後50周年の記念日にあわせ農環センターで、平成7年度の成人式が行われ、晴れの門出を祝いました。今回で8月の成人式は2年目をむかえ、服装は軽装になりなごやかな雰囲気の中で行われました。

今年度の新成人は対象者58人の該当があり（ブラジルの方2人を含む）うち45人が出席されました。また、議会、教育関係、恩師が来賓として招かれました。

式典では、村長より「終戦から50年の節目の日、敗戦の焦土から先人の努力で今日の経済大国、平和な長寿社会が築かれ、来るべき21世紀は皆さんがその双肩で担っていくかなければなりません」と若者へ激励とお祝いの言葉を述べ



▲決意をのべられる岩山さん、原さん

られました。また、新成人の代表、岩山剛さん、原真知子さんの2人から、「重要な権利を与えられ大人の仲間入りをするに不安な気持ちと、今まで以上に責任ある態度で数々の行動に臨む事を期待され、時には大きな壁にぶつかるとも

あるが、それを乗り越え、より大きく成長してゆきたい」と決意をのべられました。



▲緊張の中、気持ちも新たに

また、記念品としてアルムが代表の井沢めぐみさんに手渡されました。式典終了後、記念撮影、祝賀会に移り、正午に参加者全員が戦没者に対し黙祷をささげました。

祝賀会は、成人者の近況報告などをまじえ、久しぶりの再会に喜び、にぎやかに行われました。



▲祝賀会での様子



## 成人おめでとう

### 夢をもち、それを抱き続ける

#### 新成人に贈る言葉

宇宙開発事業団宇宙実験搭乗部員

向井 千秋

子どものころ、「大きくなったら何になる?」と聞かれ、「お医者さんになる」と作文に書いたのは、たしか小学校四年生のときでした。そのころ、すぐ下の弟が、高熱で骨が弱くなるという難病にかかっていた。母は足にギブスをはめた弟をおんぶし、東京への病院通いを続けました。そんな弟を見ながら育った私は、「医者になりたい」と心に決めたのです。

ゴールを決めたら努力するだけ努力する——あとはケ・セラ・セラ（どうにかなるだろう）という、生来の楽天的な性格が、医者になる夢を現実のものにしたのではないのでしょうか。

#### 好奇心から 宇宙飛行士に応募

いくつになっても、夢を見られたら最高!——そう思っていた私に、宇宙へ飛び立て

#### 自分のやりたいことをスタートさせる

るチャンスが巡ってきたのは、本当に偶然の出来事でした。ある朝、新聞を開くと、「宇宙飛行士募集」という小さな記事が目止まったのです。いまから十年前、三十二歳のときでした。宇宙から地球を見たら、どんなにきれいだろう!——その記事を切り抜いて、財布にしまっておいた私。そして、願書を投函したので

すことのできた三十二歳は、私にとって人生の大きな分岐点となりました。こうした経験から、二十歳になられた皆さんに言えることがあるとすれば、結果がどうあれ、自分がやりたいと思ったことを、ためらわずにスタートさせることです。

私は、人間の能力には、それほど差がないと思っています。あとは、自分の中に夢をもち、それを抱き続けることができるかどうかの差だと思います。成人を迎えられた皆さん、小さな夢や大きな夢を大いに心に抱いてください。



宇宙開発事業団提供

向井 千秋さん  
プロフィール

（むかい・ちあき）  
宇宙開発事業団宇宙実験搭乗部員。医学博士。慶応義塾大学医学部卒。四十二歳。心臓外科医から宇宙飛行士に応募し、一九八五年八月、毛利衛さんと土井隆雄さんとともに、日本人初の宇宙飛行士になる。一九九四年七月、アメリカのスペースシャトル「コロンビア」に搭乗。宇宙で八十一日の実験をこなす。約十五日間地球を二百三十六周する。女性として、一回のフライトで最長の宇宙滞在記録を樹立。趣味はスキー、水泳、ゴルフ、テニス。

